

現代的な諸課題の解決を目指し、自ら学びに向かうことのできる生徒の育成

—パフォーマンス課題の設定とOPPシートの工夫を通して—

特別研修員 地理歴史科 八木祐亮（高等学校教諭）

生徒の実態

歴史を学ぶ意味や意義を見いだせておらず、現代的な諸課題の解決に向けて歴史的背景の理解や歴史的な見方・考え方が必要であると感じていない。



教師の願い

非認知能力としての「学びに向かう力」を伸ばすため、歴史を学ぶ意味や意義を感じながら、学習に必要な感をもって主体的に取り組んでほしい。



歴史総合 B(4)「近代化と現代的な諸課題」

手立て①

現在の自分と歴史をつなぐ具体的なパフォーマンス課題の設定

Good Point!

- ・「あなたならどう回答するか」と問うことで**自分事になる**。
- ・手紙や人物像など具体的な設定を入れることで**歴史が身近に感じられる**。
- ・「歴史的経緯をふまえ」など評価規準を示すことで**取り組みやすくなる**。

19世紀イギリス人男性資本家からの手紙：家で夫を支えなければならない妻が、この時代ではなぜこんなにも外で働いているのだ！？…私が教えてやろう。妻が働きに出るということは、夫の稼ぎが足りず、妻を養えないということだ。…私の時代では、男は男・女は女の役割があった。その方が男も女も幸せであるはずだ。一体なぜこんな世界になってしまったのか？私たちの時代が間違っていたのか！？私はそれが知りたい。納得できるように、きちんと話してくれ。

あなたなら、この手紙に対してどう回答しますか？歴史的経緯をふまえ、男女平等を目指す世の中に生きる現代人として誠意をもって回答してください。

手立て②

学びを蓄積し生徒を自走させるOPPシートの工夫

Good Point!

- ・見通し、追究、まとめ、自分との関わりまで1枚ポートフォリオ(OPP)とすることで**生徒が自ら学習を進められる**。

見通しをもつ

課題に対する最初の回答

決めつけてしまうのはよくない。
なぜそうなったかは分からないけど、今は男女平等が大切だ。

課題解決に向けて調べておくこと

なぜ男女の格差を認める考えが生まれたのか。
男女の役割を固定するような価値観を、誰がどう変えようとしてきたのか、なぜ変わってきたのか。

課題を追究する

第1時	第2時	第3時
課題の回答に必要なこと 男女間の格差を認める考えは、 <u>産業革命のときに都市化が進む中で生まれていったことが分かった。</u>	課題の回答に必要なこと この男性が生きていた時代よりも前（18世紀ごろ）から、 <u>女性の権利向上を求めた運動が広がっていた。</u>	課題の回答に必要なこと 第一次世界大戦で女性が労働力として貢献したことや、民主化の流れの中で、 <u>様々な国が女性の権利を認めるようになってきた。</u>

課題をまとめる

課題に対するまとめの回答

産業革命によってあなたの考えは生まれたので、決してずっと昔からの絶対的なものではありません。あなたが生まれる前からフランスの女性が男女平等を目指しており、…女の人は「働きたい」「人権を認めてほしい」と思っていた人も多かったのです。…人それぞれ幸せの価値観は決めつけるものではないと思います。あなたが亡くなったあと、20世紀に起こった第一次世界大戦で戦争に行ってしまった代わりに、女性が働くことになり、女性が活躍し女性にも参政権が認められ始めました。その時代に参政権を求める女性が拡大し、国も参政権を認め始め今のような時代になっていたのです。

現代的な課題と自分との関わり

OPPシートを使ってこのパフォーマンス課題に回答したら、今の時代の男女格差問題の背景がよく分かった。こうした格差がなくなるように、私は歴史をふまえた解決策を提案できる人になりたい。歴史を学ぶって大切なんだな。(生徒の感想から抜粋)

成果と課題

- 上記のような具体的なパフォーマンス課題を設定したことで、見通しをもつ場面において生徒が課題に回答するため自ら必要な問いを立てることができていた。また、追究する場面においてもそれらの問いを主体的に追究しようとする姿が見られた。
- 課題をまとめる場面において、生徒はOPPシート内の記録を何度も振り返りながらまとめの回答を作成していた。ほとんどの生徒が単元で学習したことをふまえてまとめの回答を作成できており、OPPシートの有用性を確認できた。
- 「現代的な諸課題に自分がどのように関わっていくべきか」という問いにおいて、多くの生徒が一般的・抽象的な表現に留まっていた。生徒が自分のとるべき行動・今後あるべき姿をより具体的に記述できる手立てを入れるべきであった。